昭和25年 2月6日第三種郵便物認可　平成26年11月1日発行（月1回1日発行）第66巻　第11号　11月号　通巻783号　ISSN 0285-7057

農家の友

人を、知恵を、技術を育む
Agri-Magazine for Hokkaido

11
2014
November

特集 野生動物から農畜産物を守れ！

ひだか東地区の夏秋どりイチゴ栽培の取組み

「相乗りコンテナ」を利用した農産物の輸出

ロボット農業はどこを走っているのか？

農業青年の婚活に伴走～NPO法人赤い糸プロジェクト

農業青年の婚活に伴走

～NPO法人赤い糸プロジェクト

NPO法人赤い糸プロジェクト
代表理事　大澄　宣枝

未婚率の上昇は、地縁・血縁・職縁による異性との出会いの減少だと考えられる（本文と写真は関係ありません）

本年4月より本格的に活動

NPO法人赤い糸プロジェクトは、今年1月に特定非営利活動法人として認証され、結婚を望む未婚の男女に、出会いの場をつくり、男女のコミュニケーションや人生設計をともに考える活動を行っています。こうした取組みを通じて、最良のパートナーを見つけ、お金だけではない幸せな「家庭」をつくるお手伝いと、ちょっとした後押しをさせていただいています。これにより少子高齢化社会の進行緩和に寄与し、ひいては地域の活性化に貢献することを目指して、赤い糸プロジェクトは4月から本格的に活動をしています。

地縁・血縁・職縁による異性との出会いが減少

北海道における未婚率は、平成22年の「国勢調査」によると、男性29・8％、女性22・8％となっており、さらに上昇が予想されています。この未婚率の上昇の背景としては、結婚観や価値観など、個人の意識の変化とともに、女性の高学歴化、女性労働力への需要が高まったことに加え、子育てへの不安感の増加などが指摘されていますが、私たちはそれ以上に、地縁、血縁、職縁による異性との出会いが減少したことが、最も大きな要因だと考えています。昭和のころは、男女とも適齢期といわれる年齢になると、職場や親戚、知人による紹介で結婚相手の候補となる異性に出会える機会が多くありました。ところが、最近は個人情報保護の問題や個人の権利を尊重する傾向から、職場や地域での人間関係が密とはいえなくなり、上司が部下に相手を紹介したり、近所の「お見合いおばさん」的な存在も少なくなってきています。そのため、農業青年に限らず、結婚を望む男女は自ら相手を探さなければならないのです。

図1、2をご覧ください。見合い結婚と恋愛結婚の比率を比べると恋愛の比率が上昇していますが、婚姻数で比較すると、恋愛による婚姻はほぼ横ばいに推移しており、見合いによる婚姻が急激に減少したことが分かります。

「自分の魅力のなさ」「出会いの場所が分からない」

北海道の離婚数は1965年ころまでは、人口10000人当たり1組程度だっ

図２　見合い結婚と恋愛結婚の婚姻件数

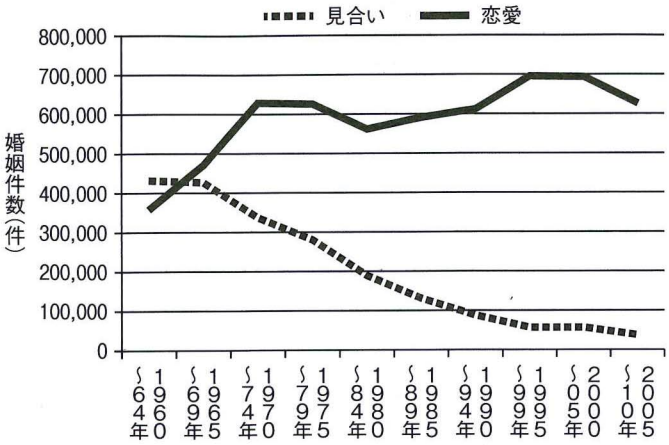
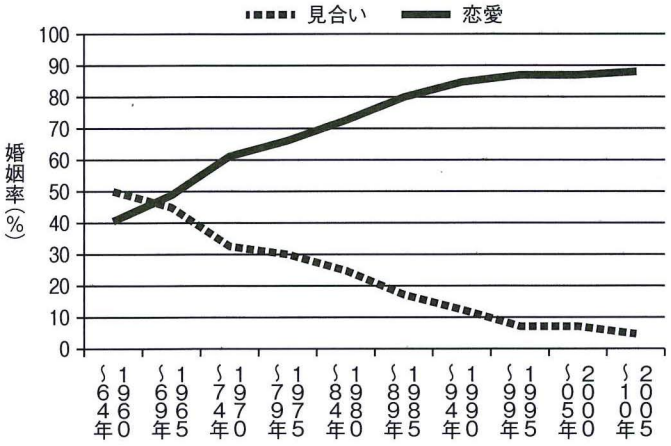


図１　見合い結婚と恋愛結婚の構成率



たものが、今では2・5組前後まで上昇しており、全国でも常にトップ3という状況が続いています。このような背景から、適齢期の異性を紹介することに尻込みしてしまうのも納得できるところです。

ところが、国立社会保障・人口問題研究所が行っている「出生動向基本調査」によると、「いずれは結婚しようと考える未婚者の割合」は、減少傾向にあるものの、9割弱で推移しており、依然として高い水準にあります。また、「平成25年版　厚生労働白書」では、異性と交際する上で男女とも「自分の魅力のなさ」「出会いの場所が分からない」というのが、交際への不安として上位を占めているほか、男性では「どう声をかけてよいか分からない」といった交際の始め方にかかわるものの割合が高いというのが実状です。

ＮＰＯ法人赤い糸プロジェクトは結婚を望む未婚の男女の出会いの場をつくっています（本文と写真は関係ありません）

表１は農業青年に限定した統計ではありませんが、農林漁業職の男性に嫁いだ女性の職業です。同じ農林漁業職の女性はたったの1割にすぎません。出会いの機会さえあれば、いろいろな職業の女性と結婚することができるということだと思われます。

表１　農林漁業職の男性に嫁いだ女性の職業

管理職	0.3%
専門・技術職	14.3%
事務職	13.1%
販売職	7.1%
サービス職	15.8%
保安職	0.1%
農林漁業職	9.4%
生産工程職	3.3%
輸送・機械運転職	0.9%
建設・採掘職	0.7%
運搬・清掃・包装等職	0.4%
職業不詳	1.5%
無　　職	32.1%
不　　詳	0.9%

参考：平成22年度 人口動態職業・産業別統計の概況

豊かさ、魅力に気が付いていないのでは

とは言え、女性は結婚の条件として、相手の「経済力」「職業」を考慮・重視する割合が高く、その傾向は強まるばかりです。しかし、日本の食料基地である北海道の農業を支え、日本の自給率を下げまいと努力されている農業青年は、もっと自信を持っていいはずです。数千万円の農業機械を惜しげもなく土まみれにし、1日では回りきれないような土地を所有し、その上、リストラもありません。朝、鳥のさえずりで目を覚まし、取れたての野菜を食べ、働き、地平線に沈む夕日を見ながら、一日を終える。その豊かさ、魅力に、みなさん自身が気付いていないのかもしれません。

ところで、いわゆる都会

のサラリーマンの小遣はいくらか知っていますか？昼食代を含めても月4万円ないのです。独身者でもプラス1万円ちょっとなのです。昼食代の平均は1日500円、最低でも月に1万円はそこから削られるのです。「そんなに少ないの？」と思いませんでしたか？農業青年はもっとリッチではありませんか？

生涯の伴侶と出会い、そのゴールを私たちと一緒に目指しましょう（本文と写真は関係ありません）

人生設計が描ける情報を相手に伝えましょう

でも、あなたは自分の年収を言えますか？ 成人した一人前の男子が、年収いくらとはっきり言えないのでは。例え、女性が好いてくれたとしても、その親御さんは首を縦に振らないでしょう。「彼は小遣いで生活しているのか？」と。

農業経営の強化や拡張のためにも、農業の法人化が推奨されていますが、結婚を考えたときにも、自分の年収が明確になり、両親の生活との線引きもしっかりできる。納税・社会保険の加入など、社会的ポジションも明確になる。そして何よりも、ちょっとしたアイデアがあれば、お嫁さんとなる人のキャリアを生かすこともできるのです。

農作物を使った食品加工、レストラン、インターネット販売、アイデアは尽きないでしょう。当然、その収入から家賃や農業にかかる経費も払わないといけないでしょう。借金も応分を負担しなければなりません。でも、結婚して、子どもを育てていくための人生設計をきちんと相手の親御さんに説明できるようになるのです。

法人化のハードルが高いようでしたら、まずは、自分の家の生産高、経費、借入などを知り、「わが家にはこれだけの収入がある」と明言できるようにしましょう。人生設計が描けるだけの情報を相手に伝えることができれば、折り返し地点です。

伴侶との出会いを求めて、一歩踏み出しませんか？

私たちは、これまでの活動を通じ、婚活パーティーが楽しかったと感じる人がいる一方、婚活パーティーに参加するのは大変抵抗があると感じる人も多くいることも知っています。そのような人のために、少人数の合コン程度のパーティーや、趣味のサークルのような出会いの場も企画しています。また、会員になれば、一対一のいわゆる「お見合い」をセッティングすることもできます。お互いの条件や好み、収入や職業を知った上で、結婚を前提にお付き合いすれば、恋愛結婚よりも離婚率が低く、幸せな結婚生活への近道と考えています。

さらに今後は、ご本人が「見合い」をする前に、親御様同士の出会いの場（代理見合い）を設けることも予定しています。「親の意見と茄子（なす）の花は、千に一つも仇（あだ）はない」といわれる通り、結婚しないお子さまをお持ちの親御さまが、一肌脱ぐことは決して悪いことではありません。それどころか、「親が良いという相手なら……」と思うはずです。

私たちの使命は、結婚を望む未婚者のご相談にのり、結婚に至るまで伴走することです。まずは、勇気をもって一歩踏み出していただけませんか？ 生涯の伴侶との出会い、そのゴールを私たちと一緒に目指しましょう。